

一

次の――部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 商品をコウニユウする。
- ② 石油のジュヨウが増してくる。
- ③ たくさんの問題をレッキヨする。
- ④ 小学校のドウソウ会に出席する。
- ⑤ 荷物を大切にホカンする。
- ⑥ 勝手な行動はジチヨウしなさい。
- ⑦ テンケイ的な例をあげる。
- ⑧ ガイトウで演説が始まった。
- ⑨ 自分の力をカシンする。
- ⑩ むだな言葉をハブく。

二

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

「夢と感動の物語」はどのようにして紡がれたのか。誰もが知っているはずの民話、童話をディズニーはどのようにして傑作アニメーションに作りかえたのか。その魔法の秘密を知りたい、その舞台裏が見たいと思わない人はいないだろう。

それは簡単ではないが、できないことではない。とくにディズニー・クラシックスと呼ばれるもののなかで、古典童話を原作にしているものは、もともになったものと比較することで、ディズニーがどのように夢と感動をそこに織り込んでいったのかを知ることができる。

原作となった古典童話は、アニメーション映画のストーリーと異なり、残酷で暴力的で、しばしば猟奇的で倒錯的すらある。グリム童話の「白雪姫」は最後に継母に残酷な仕返しをする。王子も生きた白雪姫ではなく、その死体と恋に落ちている。

『ピノッキオの冒険』では、「ものをいうコオロギ」は、始まってまもなくピノッキオに木槌で殺され、以後あまり登場しない。ピノッキオとジェット爺さんを呑み込むのもクジラではなく、フカだ。

『シンデレラ』の原作の一つ「灰かぶり姫」では、いじわるな連れ子姉妹が「金の靴」に無理に足を押し込むため、それぞれかかとと足先を切り落とし、歩けなくなってしまう。ヒロインは自分の婚礼のめたい席で、さらに彼女たちの面目をつぶして復讐する。へア

ペローの「眠れる森の美女」では、美女が一〇〇年ものあいだ眠ってしまったため、彼女を目覚めさせる王子よりも一〇〇歳以上年上になっている。しかも、彼女は簡単に王子とは結婚できず、結婚したあとも、隙を見て彼女を食べようとする食人鬼の皇太子（王子の母）につけ狙われる。

アンデルセンの人魚姫は、声と引き替えに足を手に入れるが、その足で歩きたびに「とがったきりと、鋭いナイフの上を踏んでいるような」激痛を感じ、足から血を流さなければならぬ。さらに、彼女は人間との壁を乗り越えて恋を実らせることはできず、結局、海の泡になってしまう。

ルブラン・ド・ボーモン夫人の『美女と野獣』に登場する「野獣」は、ディズニーのそれに比べてはるかに物腰も柔らかで、

思慮深く底知れない優しさを持っている。また、この原作では彼女の不幸を願う妬み深い姉たちが登場し、やはり最期の場面で、妹にひどい仕打ちをした咎で厳しい罰を受ける。

このように、原作には復讐物語が多く、残酷でグロテスクで倒錯的な要素が多い。もともとこれらの童話には、民衆が心の奥底に持っていた暗い情念が色濃く反映されている。それらは、引き抜いてきた野の花のように、葉や根が付いたままの姿をしている。デイズニーは、これらの葉や根を刈り込んで、優れたアニメーション技術で彩りを添えて、子供や若いカップルが安心して楽しめるものにした。まさしく二〇世紀の「アメリカの民話」と呼ぶにふさわしいものにリメイクした。だが原作を知らなければ、デイズニーがそれらをどう脚色し、リメイクしたのかわからない。ヘイ

しかし、古典童話が読まなくなって久しい。今日の日本では、グリムやペロウやコッローディやアンデルセンなどの古典童話は、デイズニーの長編アニメーションを絵本化したもののほうが広くいきわたっていて、こちらのほうが原作のように思われている。

A、「シンデレラ」や「眠れる森の美女」にしても、わざわざペロウ版といわれない限り、デイズニー・アニメーションに基づく童話や絵本を指すようになっていく。

ペロウの童話が原作であり、デイズニー版もクレジット（映画の最後にスクリーンにでてくる制作者、原作、脚本家、俳優などの名前のリスト）にそう明記しているが、人々はほとんどそのことに注意を払わない。原作とリメイクの立場が逆転してしまったのだ。ヘウ

さらに事態を悪くしているのは、デイズニー版以外の童話や絵本も、原作に忠実ではないということだ。現在出版されているものは、復讐や残酷さやグロテスクさを取り除いてしまっている。いわば、花と茎の部分だけを残し、露に濡れた葉や土の付いた根を切り落としてしまっている。その結果、原作が本来どのような姿をしていたのか知っている人はほとんどいない。

これはおおいに不幸なことだ。なぜなら、デイズニーがこれらの古典童話をリメイクして長編アニメーションを作ったのは、観客がこれらの童話の原作によく親しんでいたからだ。観客は、どんな映画が見なければわからないものより、タイトルや原作から

ある程度内容がわかるもののほうに安心して入場料を払う。

B、すでに大部分の人々に受け入れられている古典童話を原作とするならば、多くの観客に作品を見てもらえ、かつ楽しんでもらえることを、デイズニーは経験から学んでいた。

このことは、現在のベストセラー本にもよく当てはまる。大ベストセラー『ハリー・ポッター』シリーズを映画化すれば、映画のほうも大ヒットする。観客は原作を知っていて、よほどのことがない限り退屈な映画にはならないと信じていて、かつ原作をどのようにに映画化したのか見たいと思うからだ。

古典童話がベストセラー本に変わっただけだ。

C、大ベストセラーは大金を積んで映画化権を手に入れないといけないが、古典童話の方は、著作権がないのでただという重要な違いがある。

もちろん、文章による表現と映像による表現の違いがあり、童話では簡単に表現できることが映像では難しい場合がある。あるいは、文章による表現では、別に何の面白さもないが、映像にするときわめて面白くなるということもある。したがって、文章で書かれた童話や小説を原作とするときは、原作を忠実に映像化するというより（それはそもそも不可能なのだが）、リメイクすることになる。ヘエ

デイズニーは、古典童話のように人々がよく知っている話に、少し変更を加えたり、ひねりを利かせたりするならば、全くオリジナルなシナリオで作ったものより、はるかに容易に観客に受け入れてもらえ、かつ彼らを夢中にし、喜ばせることも知っていた。例をあげるなら、グリム童話の「白雪姫」では最後の場面にしか出てこない王子が、デイズニー版では最初に登場する。当時の観客は、この変更には驚くとともに、これからどのような展開になるのだろうとわくわくしただろう。

デイズニー版『シンデレラ』にしても、原作を読んで、彼女について、気が弱く、引込み思案だというイメージを持っていた観客は、デイズニー版のヒロインがあまりにもきっぱりとものをいい、気も強く、プライドも高いので啞然としたことだろう。そして、魔法でカボチャや動物を馬車と御者にする妖精が、アメリカのどこにでもいるおばさんしか見えないので思わず吹き出したはずだ。というのも、伝統的な妖精はたいいていの場合この世ならぬ雰囲気を漂わせた、妙齡の美女として描かれてきたからだ。

同じことは、『眠れる森の美女』に出てくる三人の妖精たちにもいえる。陽気で、そそっかしく、こぼとりなこれらの中年女性

は、伝統的名付け親の妖精のイメージからはるかにかけ離れている。

『リトル・マーメイド』のアリエルなどは、人魚姫のパロディーだとすらいえる。永遠なる魂のことに思いをはせる内省的な人魚姫に対して、現世肯定的で享乐的なヤンキー娘のアリエルはまさに性格が正反対だ。

『美女と野獣』にしても、原作では美女が、野獣の導きで精神的に成長するのに対し、ディズニー版では逆に野獣が、美女に教え諭されて人間性を取り戻していく。また、原作にはガストンなる人物はまったくでてこない。

原作をここまで変えていいのか驚くばかりだ。だが、ひるがえって考えてみれば、ここにこそディズニーのオリジナリティーがある。

したがって、原作の童話をよく知らない観客は、ディズニー・クラシックスをよく理解できず、十分楽しめないということができる。もちろん、原作を読んだことがなくても、それなりに楽しめるが、その楽しみは限定的なものだといわなければならない。ディズニーは、原作をよく知っている観客を想定して長篇アニメーションを作っているからだ。D、さまざまな、ひねりやトリックや逆転や皮肉を仕掛けているからだ。ディズニー・クラシックスの面白さは、リメイクの面白さであり、それはもともなった作品をよく知っていないと楽しめない。

原作となった古典童話と比べるならば、私たちはディズニーがそれを長篇アニメーションにするとき、どのように変更し、どのようにひねりを加えたのかを知ることができる。それと同時に、ディズニーが原作をどのように受け止め、そこに自分たちの夢と魔法と感動を込め、当時の観衆に合ったものに作りかえたのかを知ることができる。それを知ることによって、ディズニーの想像力と魔法は、どのように働いたのか、その魔法はどんなディズニー的、あるいはアメリカ的性質を持っているのかを知ることができる。

(有馬哲夫『ディズニーの魔法』より)

※1 猟奇的：異常なものを探し求めること。

※2 倒錯的：社会的なルールから外れた行動をとること。

※3 咎：罰せられるべき行為。

※4 御者：馬車を走らせる人。

※5 内省的：自分の考えや行動などを深くかえりみること。

※6 享乐的：快楽にふけること。

問一 A D に入ることばの組み合わせとして、適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|----------|--------|-------|--------|
| ア | (A) だが | B また | C そして | D しかし |
| イ | (A) だから | B あるいは | C また | D たとえば |
| ウ | (A) たとえば | B だから | C しかし | D そして |
| エ | (A) そして | B しかし | C さらに | D だから |

問二 〳〵部1「葉や根が付いたままの姿をしている」の「葉や根」とは何を例えたものですか。本文中から十三字で書き抜きなさい。(句読点も字数に含みます)

問三 問題文中には次の一文が抜けています。ヘア／＼ヘエ／＼のどこに入るのが適当ですか、記号で答えなさい。

【ディズニーのディズニーらしさは見えてこない。】

問四 くく部2「これはおおいに不幸なことだ」とありますが、「不幸」の内容の説明としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ほとんどの人が、物語の原作が本来どのような内容だったのか知らないこと。
- イ ほとんどの人が、物語の原作に興味を持たなくなってしまうこと。
- ウ デイズニー版の作品が面白いため、物語の原作とリメイクの立場が逆転してしまったこと。
- エ デイズニー版以外の童話や絵本も原作に忠実でなくなってしまったこと。

問五 くく部3「デイズニーは経験から学んでいた」とありますが、ここでいう「経験」とはどのようなことか、四十字以内で説明しなさい。(句読点も字数にふくみます)

問六 部「展開」と同じ組み立ての二字熟語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 親友 イ 帰還 ウ 昇降 エ 年長

問七 くく部4「十分楽しめない」とありますが、「楽しめない」理由を六十字以内で説明しなさい。(句読点も字数にふくみます)

問八 問題文の内容の説明として適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア デイズニー映画でも、初期のころの作品は残酷で暴力的なもののばかりであった。
- イ 残酷な古典童話が人々に読まれなくなったため、子どもたちも穏やかになった。
- ウ デイズニーは古典童話と自分の映画とを人々に比較してもらうためにリメイクをした。
- エ デイズニー映画と古典童話とを比べてこそ、デイズニーの想像力と魔法を感じられる。

三

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

あれは、小学生の三年生のときだった。

家の近所に広い空き地ができたのだ。

ぼくの家は、都会のはしのほうの古い町の中にある。いや……父の話では、町は古いが以前はあっちこちに畑もあって、のんびりしたところだったそうだ。それが今では家だらけになり、古い家は取り壊されて新しくなったりマンションが建ったりで、昔とはまるで変わってしまった——のだそうである。でもぼくはそんな昔のことは知らないから、町ってまあこんなものだと思っていたのだ。

ところが、家の近くの何十軒かがいっぺんに立ち退きになった。何でも十六階建てのマンションが建設されるとのこと、それらの家は次から次へと壊されて行った。ジュースの自動販売機を置いていた菓子店も潰されてしまい……後は、ロープを張りめぐらした広い空き地になったというわけである。

しかし、マンションはなかなか建てられなかった。何か準備の都合でもあったのかもしれない。そのうちに、広々とした空き地には草が茂り始めた。

「懐かしいなあ。近頃じゃこのへんでああいふ空き地なんて、めったに見られないものなあ。子供の頃にはよくあんな空き地で、キャッチボールをしたりサッカーをやったりしたもんだ」

と、父はいったりしたが……ぼくにはろくに関係のないことだった。とにかく、学校から帰ったらすぐに塾へ行き、夜戻って食事したら勉強するかテレビゲームをやるかなのである。何もない原っぱに入っちゃって、意味がないのだ。遊ぶといったって何をしたいかわからず、相手もおらず、第一、立入禁止の札がロープにぶらさがっているのであった。

そんな、ある日。

学校から帰ってくる途中、原っぱを見ると、四、五人の小学生が中に入っている。

一番大きいのは、五年生か六年生位の男の子で、他はぼくと同じかそれ以下の年頃であった。

みんなで、何か変なものを上のほうへ飛ばしているのだ。短い細い棒の先に羽根みたいなものをくつつけて、両手で棒を回すと羽根が飛び上がるのである。

あれは、たしか、竹とんぼとかいうんじゃないかったか？

そしてぼくはその中に、クラスメートの原田勝利^{かつとし}がいるのを認めた。

原田は何もかもが普通という、あまり **A** しない奴^{やつ}であった。姿かたちも普通、勉強も普通、これといって特技もない人間なのだ。そういえばたしかお父さんが海外へひとりで行っていて、お母さんが働いていて、ひとりっ子で、かぎっ子でもあると聞いていた。しかし、ひとりっ子のかぎっ子なんてクラスに何人もいるのだから、別に特徴とは言えないだろう。

その原田が、他の連中と一緒に竹とんぼで遊んでいると。

その原田の放った羽根が、 **B** 飛んできたのだ。何とか体をひねったので肩に当たっただけで済^すんだけれども、そのままでは顔に命中するところだった。

原田が走って来た。

「悪い、悪い」

いいながら、相手がぼくと気がついたのだろう、少し **C** したように足を止めたのだ。

ぼくは羽根を拾ってやり、しかし、一応文句^{ぶんぐ}をいった。

「危ないじゃないか。それにここは立ち入り禁止だぞ」

「……」

原田は黙^{だま}って羽根を受け取ったものの、何もいい返さなかった。もともと気の弱い奴なのだ。

「何だ何だ」

大きな声を出してやって来たのは、五年生か六年生位の男の子である。がっちりした体格で、顔つきも荒^{あら}々しかった。

「おれたちはここで遊んでいるんだ」

そいつはぼくをにらんだ。「邪魔^{じゃま}をするつもりか！」

「ここは……立ち入り禁止ですよ」

ぼくは、ロープに下がった札を指した。

「そんなもの、お体裁^{ていさい}でつけているんだ」

そいつはいい返した。「いかんというのなら警察でもそのへんの奴でも呼んでこい。呼べるものならな！ 原っぱがあったら遊ぶもんだ！ つべこべいうな！」

「……」

ぼくはもう何もいわなかった。

²こんな野蛮な奴を相手にしたって仕方がない。

それにまた、こんなことでわざわざ警察へいいに行く気もぼくにはなかった。そんな真似^{まね}をすれば母が、つまらぬことをして、とぶつぶついうのは間違^{まちが}い。だからぼくは無言でその場を離れたのだ。

その夜、ぼくはこの件を母に喋^{しゃべ}った。

「放^はつときなさいよ」

案の定、母はいったのだ。「出過ぎたことをしなくてもいいの。トラブルは嫌^{いや}ですからね」

もつとも……父はこの話を聞き、今どきにしてはなかなか勇ましい子がいるものだなと母に感想を洩^もらしたらしいが、……さ³すがに直接にはぼくにはいわなかったのである。

次の日も、また次の日も、原っぱには子供たちが集まっていた。五、六人から、多いときには十数人が来ていたのだ。

そのリーダーは、例の五年生か六年生位の奴である。みんな、リーダーのいう通り、上体をかがませて膝^{ひざ}を持った者の背中を順

番に飛んだり、輪を棒のようなもので押して回しながら走ったり、腕立て伏せをやったりしているのだ。その中にはいつも原田がいた。

ぼくは一度か二度、おとなが、

「こら！ そんなところで遊ぶな！」

と、わめくのに出くわしたことがある。

するとかれらは、リーダーの、逃げる！ という命令一下、外へ走って行くのだった。それを見るとどなったおとなのほうも、どういふつもりか、わつはつはと笑うだけなのである。そしてそのおとながいなくなると、かれらはまた戻ってくるのであった。ぼくはこのことを、学校でいふらしたりはしなかった。喋ればみんなの噂になるだろうし、原田自身も困った立場になるに違いない。ぼくは原田には何の義理も恩義もないけれども、D 他人のことを喋りまくるような人間にはなりたくなかっただけである。

ただ、当の原田には学校で忠告してやった。

「きみ、あんなところで毎日遊んでいて、勉強はどうなってるんだ？ それに、今に近所の人もうるさくなるだろうし、学校にも知れるぞ」

「いいんだよ。ぼくはかぎつ子だから、自分で自分の面倒位見られるよ」

原田は、意外にしっかりした口調で答えたのだ。「昼間は昼間。ぼくは塾へ行っていないしね。夜は自分で勉強してるんだ」

「……」

「あいつ……ぼくらにいろいろ遊びを教えてくださいる奴ね、テツオっていうんだ」

原田はつづけた。「テツオが教えてくれるまで、ぼくはあんな面白い遊びがたくさんあると知らなかった。それに、いろんな本を貸してくれるんだ。マンガや小説で、これも面白いんだよ。何かと元気づけてもくれるし」

「……」

相手がそんなつもりなら、もう何をいっても仕方がないだろう、と、ぼくは諦めたのであった。

そして。

やっぱりぼくが思っていたように、原っぱでのことは問題になり始めた。近所のお母さん連中があれこれいうようになってきた

——と、母から聞いたし、学校でも原田が他のクラスメイトに何かいわれているのを何度も目にするようになったのだ。

ときには学校からの帰り、原っぱのロープの外に何人かが並んで、中の様子を眺めているのを見掛けたりもした。

このままでは、きっと、何かうるさいことになっただろう。

だが、そのうちにマンション建設が開始された。ロープの代りに高い仕切りが作られ、中には機械類が入って、ごうごうがりがりと音を立てるようになったのだ。

もちろんそうになると、もう中には入れなかった。原っぱでの、テツオとやらいいうリーダーにひきいられての子供の団の遊びは、消えてしまわねばならなかったのである。

そのころからぼくは、原田が変わってきたのに気がついた。マンションの建設が始まる少し前には、原田はみんなにいろいろいわれるようになっており、いじめの対象になるのはほとんど時間の問題だったのだが……妙に落ち着いてきて、おかしいことをいわれても相手にせず、それでもひやかそうとする者がいると、みんなの前で、ここで決闘しようといい、なぐり合いもするようになったのである。もっとも、いつも原田が勝つとは限らなかった。三回に一回は負けたのだ。これでつねに勝っていれば、またそれはそれで憎まれたであろうが……ほどほどに勝ったのである。のみならず、学校の成績はまあ普通でも、体育のときには宙返りややってみせたり大車輪をやったりして、先生をびっくりさせたし、絵もうまくなった。人気マンガの主人公の絵など、誰も真似できなくなったのだ。

不思議なことだ、と、みんなはいった。そしてぼくは思うのだが、普通ならそんな風になればなるほど、みんなのけものになれるところなのに、何となく一目置かれて、誰も妙なことをいわなくなったのが……ぼくにはさらに不思議だった。

ぼくは現在高校の二年生だ。よく知られた進学校に通っている。

そして原田は、あまり有名でなく進学校でもない高校に行っているが……聞くところによればスポーツが達者でサッカーか何かの選手であり、美術展にはたびたび入選し、高校生の発明展覧会で賞ももらったりして、その学校のホープなのだそうである。原田は原田としての人生を歩もうとしているのだろう。

今になって考えれば、原田はあの原っぱでの遊びで、テツオに教えられ鍛えられているうちに、だんだん変わってきたのではないか……テツオとはそういう魔力か超能力みたいなものを持った奴だったのではないか——という気がする。そして、テツオと遊んでいた他の子供たちにしても、テツオによって何かの能力を開発されたのではないだろうか。原っぱでの、ぼくなどから見れば馬鹿馬鹿しい遊びをやり、テツオの感化を受けて、そうやって行ったのではなからうか。

ぼくがこんなことをいうのには、理由がある。

この間ぼくは、学力コンクールを受けるためによその高校へ行った。

その高校の傍に、空き地があったのだ。大きな空き地で、草が茂っていた。

空き地にはロープが張られ立入禁止の札があり、その中で子供たちが走り回っていた。そのリーダーは、小学校の五年生か六年生の——あいつだった。テツオだったのだ。いくら見ても間違いない。あの子のテツオだったのである。あれからもう八年も経つのに……あの子のままのテツオが、子供たちをリードしていたのだ。

信じられなければ、信じてくれなくてもいい。

けれどもそうだったのだ。

きっとテツオは、年をとらない……空き地があればそこに出現して子供たちのリーダーになる存在なのだ。そして、一緒に遊んだ子供たち、そうしようとした子供たちに力を及ぼし、子供たちを変えようとしているのだ。人間ではなく、そういう存在なのだ。ぼくはそうだと信じるのである。

(眉村 卓『原っぱのリーダー』より)

問一

- | | | | | | | | |
|-----|-------|---|-------|---|------|---|-------|
| A | D | に入ることはの組み合わせとして、適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。 | | | | | |
| ア A | しゃきつと | B | ひらひらと | C | ほつと | D | ぼそぼそと |
| イ A | ぱつと | B | ひゅうと | C | ぎくりと | D | ぺらぺらと |
| ウ A | びしつと | B | はらはらと | C | はつと | D | ぶつぶつと |
| エ A | きりつと | B | きらつと | C | むつと | D | べらべらと |

問二

~~~~部1「文句をいった」理由を五十字以内で説明しなさい。(句読点も字数にふくみます)

問三

||部 a「体裁で」、b「一目置かれて」の意味として、適当なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

a「体裁で」

- ア 飾りで  
イ なんとなく  
ウ 必要で  
エ 見た目で

b「一目置かれて」

ア だけれども注目されなくて

イ こわがられ近寄らないようにして

ウ 敬意をはられ認められて

エ 仲間にされたりされなかったりして

問四

くく部2「こんな野蛮な奴を相手にしたって仕方がない」を文節で区切った場合、何文節になりますか。漢数字で答えなさい。

問五

くく部3「さすがに直接にはぼくにはいかなかった」理由として適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 原田たちの態度を肯定する発言を息子に言うとき、せっかく落ち着いてきた気持ちを再燃させてしまうおそれがあるから。

イ 原田たちの行動を支持するような発言を息子に言うとき、注意をした行為を否定してしまうことになるから。

ウ 息子の勇気ある行動をほめてしまうと、母の息子を思う気持ちをむだにってしまうから。

エ 息子の勇ましさをほめてしまうと、最後まで自分の発言に責任を取らなかった点まで評価することになるから。

問六

くく部4「意外にしっかりと口調で答えた」とありますが、なぜ「意外」のですか、その理由を四十字以内で説明しなさい。（句読点も字数にふくみます）

問七

くく部5「そのリーダー」とは子供たちにとってどのような存在だと「ぼく」は理解していますか、その説明として適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア かぎっ子など孤独を感じている子供たちと遊ぶことによって、自分自身も成長していく存在。

イ 原っぱがあればどこにでも現れ、子供たちをあたかも自分の弟子のようにかわいがりたい存在。

ウ 原っぱと一緒に遊ぶ子供たちをひっぱりながら、遊びを通して能力を引き出すことができる存在。

エ 何のとりえもない子供たちに遊びを通して、人格を変え生きていく力を身に付けさせる存在。

(国語)

|   |   |
|---|---|
| ⑥ | ① |
|   |   |
| ⑦ | ② |
|   |   |
| ⑧ | ③ |
|   |   |
| ⑨ | ④ |
|   |   |
| ⑩ | ⑤ |
|   |   |
| < |   |

二

問一

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

三

問一

問二

問三  
a  
b

問四  
文節

問五

問六

問七

受験番号  
氏 名

得 点